

「モニタリングサイト1000」 調査を開始しました



調査風景

上天草市松島町永浦島の永浦干潟が、「モニタリングサイト1000」に選ばれました。

「モニタリングサイト1000」は、自然環境の質的・量的劣化の早期発見を目的に、全国で約1000の観察地点(モニタリングサイト)で、100年間継続して環境を調査する環境省の新プロジェクトです。観察地点には日本列島の様々な生態系(森林, 里地, 里山, 河川, 干潟, サング礁など)を代表する優れた自然環境が選ばれています。

永浦干潟が選ばれた主な理由は、自然環境が良好で、生物多様性が高く、熊



ヒメヤマトオサガニのダンス

本大学による過去のデータの蓄積があり、今後開発される可能性が低いことです。合津マリンステーションのメンバーによる第1回調査(7月1~2日)では、この干潟の代表種のハクセンシオマネキ以外に、希少種のイボウミニナ, オカミミガイ, キヌカツギハマシノミガイ, シオヤガイ, ツバサゴカイ, ウモレベンケイガニ, メナシピンノ, ヒメヤマトオサガニも確認されました。



ツバサゴカイ

第10回国際カイアシ類会議

(10th International Conference on Copepoda) 報告



嶋永准教授は、タイのパタヤで開催された第10回国際カイアシ類会議(2008年7月13日~19日)で、研究発表しました。

小型甲殻類の仲間であるカイアシ類は、最も生物量が多い海洋の動物プランクトンの一つで、プランクトン総個体数の70~80%を占めます。ほとんどの海産魚類の子供はカイアシ類を主要なエサとしているので、私たちも間接的にこの生き物のお世話になっています。

大会には、約40の国・地域から200名以上の研究者が集い、日本からも22名が参加しました。この数は韓国と共に主催国のタイ(26名)に次いで多く、我が国の海洋生物研究者の関心の高さを示しています。

私は、「ハクセンシオマネキとコメツキガニの巣穴が堆積物中の小型生物(メイオフアウナ)に与える助長効果」に関する研究発表をしました。「これら二種のカニの巣穴は、底生カイアシ類をはじめとするメイオフアウナには、あまり強い正の効果を与えない」という、ネガティブデータの発表だったため、聴衆の反応が心配だったのですが、予想外に好評でした。これはおそらく、私の研究テーマに対して興味を覚えたからだけではなく、他の発表者が大量の情報を早口でしゃべるため、多くの聴衆、特に非英語圏からの参加者がついていけない場合が少なからずあっ